

平成17年の仕事納めのあいさつ

平成17年12月30日

みなさん、平成17年の仕事納めの日を迎え、一年間本当にお疲れ様でした。心から感謝を申し上げたいと思います。

今年7月、町民みなさんから無投票当選という大変温かいご支援をいただきまして、町政の舵取りを任せられ、半年が経とうとしております。

私は、元気な礼文町をつくりましょう! というお話をさせていただき、住むことに誇りを持てる町づくりをめざしてまいりたい。そんな思いで今日を迎えることができました。職員のみなさんにおかれましても、公務員に対する厳しい社会の目が注がれている中で、「給与と定員の削減」という極めて苦しい現実の中、更に、町独自の手当削減にもご理解とご協力をいただいているところであり、日々大変な思いの中で、町民福祉の向上のために一生懸命仕事をされていることに対しまして、あらためて、心から、感謝と敬意を表すところでもあります。

今年の礼文町は、去る16日の定例会でお話しいたしましたとおり、漁業も観光も、そして、公共事業も、その全てが期待されましたが、暗い結果に終わってしまいました。

特に、漁業は、12月に入ってから時化続きで漁に出ることができなかったために定例会で報告した28億6千万円をさらに下回ると見込まれています。

このように引き続き本町の地域経済は、苦しい状況にあり、町財政も自主財源の極めて乏しい脆弱な状況ではありますが、私は、元気を出せる地域づくりに邁進していきたいと考えております。

そのためには、職員みなさんに知恵を出し合っていていただき、町の振興につながる方策を編み出していきたいとお願いを申し上げたいと思っています。

お金のない今だからこそ、人材や組織の総合力が試されるのでございます。

みなさんの持つ知恵やノウハウ、そして行動力を最大限に発揮して、これに柔軟な発想を加え、地域の活性化に努めていただきたいと思っております。

予算編成の時期となり、それぞれに新年度のことを考えていることと思いますが、私は、前例や縦割り意識にとらわれずに、柔軟な発想で行おうという皆さんの創意工夫を最大限応援したいと考えているところでございます。

さて、来年は色々な意味で、本町の将来を決定する大事な年になると考えております。

それは、国の三位一体改革の総仕上げの年となるからであります。

国庫補助金の削減内容や税源移譲の枠組みなどが決まって参りますし、交付税改革も更に進んでまいります。

厳しい地方財政計画のもとで、本町の行政改革も更に「集中改革プラン」へと衣替えしなければなりません。新年度の予算編成の作業も並行して進めていくこととなります。

そして、最も大きな課題である市町村合併問題も、来年春には、北海道の「基本構想」が策定され、本町においても、より活発な議論が展開されていくと考えています。

特に、今年の春先から合併問題プロジェクト、三つの行政改革のプロジェクトを設置いたしまして、熱心に検討協議を続けていただきました。

それぞれの業務のあとに、夜おそくまで、時には深夜に及んだということも聞いておりました。

私は、皆さん方が取りまとめたプロジェクトの客観的なデータは極めて重要なものであると考えており、これらをもって、今、議会のみなさんと礼文町の将来のあるべき姿を協議しているところでございます。

そしてこのあと、議会のみなさんとともに町民みなさんへの説明会や懇談会を開催して、礼文町の進む道を決めていきたいと考えております。

全庁を挙げて取り組んでいかなければならない大事な問題であると思いますので、職員みなさんのご努力をあらためてお願いする次第であります。

また、私は、長年の懸案でありました温泉を町内外のみなさんからご協力をいただきながら掘削するため、12月議会

で「温泉開発基金」を設置させていただきました。

みなさんからもいろいろな知恵をいただき、温泉開発委員会の中で議論しながら温泉開発事業を進めていきたいと思っているところでございます。

難題山積の状況であります。私は、ひとつひとつ、また職員みなさまと共に頑張ってまいりたいと思いますので、引き続き、ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

明日から、年末年始の休みとなります。

つかの間の時間ではありますが、ご家族のみなさんとゆっくりと休んでいただきたい、もちろん、交通安全にも充分注意していただきたい、そして、しっかりと鋭気を養っていただき、年明けから、私とともに、礼文町発展のために頑張りたいとお願いを申し上げるところでございます。

今年一年、本当にありがとうございました。

以上申し上げまして、仕事納めの訓示といたします。